

令和4年度 駿河台こども園 教育活動等に対する学校評価

令和5年3月3日

1 こども園の教育目標 …

明るく素直な子

- ・思いやりのある子
- ・進んで運動や遊びに取り組む
- ・自分で考え、のびのび表現できる子

2 本年度の重点目標 …夢中になって遊ぶ子

※評価点 4(十分に成果があった、十分にできた) 3(成果があった、できた) 2(少し成果があった、すこしできた) 1(成果がなかった、できなかった)
(No. 1)

評価対象	評価項目	自己評価			学校関係者評価委員 御意見
		R2	R3	R4	
1教育・保育の計画性	①園の教育理念・教育方針を理解している	3.3	3.3	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方の意識も高く良い数値だと思う。 ・目の前の子どもには目を向けるが、理念や目標への意識は薄れることがよくある。会議等で理解していく姿勢が見られてよい。 ・⑥の小学校と繋げようとする姿勢はとても大切だと思う。保護者への信頼を高める大きな要素である。 ・低年齢であり個人差も大きいと思う。画一的に指導せず、個性を重視して指導していただければよい。 ・広域強盗事件や特殊詐欺事件等、従来なかった犯罪が日常茶飯事になっている。幼児期に、慈悲とか愛情に囲まれた中からはそのような事は起こらないと思う。今こそ仏教園として頑張ってもらいたい。坐禅の時間を設けているのは素晴らしい。 ・小学校中学校でも、こども園との連携の大切さを感じている。R5年度より少しずつ連携を深めていけるとよい。 ・評価の点数は高くないが、「一人ひとりの関わり」や「子どもの思い」を大切にしている振り返りが多く、意識の高さが伺える。
	②認定こども園教育・保育要領の理解に努めている	3.1	3.3	3.1	
	③園の教育目標や教育・保育要領を元に教育課程や指導計画を立てている	3.2	3.3	3.3	
	④乳幼児の発達段階や実態などをベースに、歳児ごとの指導計画を考え作成している	3.4	3.2	3.4	
	⑤子どもの生活や動き・思いを大切に環境構成を工夫している	3.3	3.3	3.4	
	⑥幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿や小学校との接続を意識している	3.0	3.2	3.1	
2保育の在り方・子どもへの対応	①朝の登園時には特に視診を大切に、子どもの体調が悪くないか確かめている	3.7	3.7	3.6	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年のバス事件より、保育士の不適切な保育が次から次へと浮上し、注目され、やりにくさもあるかも知れないが、職員の皆様には、謙虚な姿勢で日々の保育を頑張ってもらいたい。 ・ゆとりのある保育が先生から園児に伝わり、豊かな心が醸成されるものと考えている。幼児期の体験がその後の成長に大きく左右されるもの信じている。是非、色々な場面での交流をお願いします。 ・少子化で兄弟姉妹が少ない中、園での子ども同士の交流は重要だと思う。まずは、元気で喜んで通園できるように接してもらえればよいと思う。 ・一人ひとりの子どもを大切にしようという姿勢がよく現れている。特に⑤の全員が子ども理解に努めようとする姿勢が素晴らしい。 ・⑥は小学校でも大きな課題になっている。ケース会議とともに、小学校や保護者とのつなぎ方が大切になると思う。 ・遊び込むことへの工夫が見られる。一斉保育ではないそれぞれの時間を設けていく事が大切になっていくと思うが「行事」があるとなかなか難しい面がある。(遊び込むには音環境も大事) ・マスクの下にまで気を配る先生のプロ意識に感心した。
	②一人ひとりの思いを大切に受け止め、個に応じた支援を心がけている	3.5	3.5	3.5	
	③遊びこめるような環境や時間への配慮をし、子どもの自主性・自発性を大切にしている	3.3	3.2	3.2	
	④行事や活動を通して、子ども同士のかわりや異年齢児との交流を大切にしている	2.5	3.3	3.3	
	⑤教職員全員が、全園児について理解していくように工夫や努力をしている	2.9	3.1	3.2	
	⑥支援の必要なこどもの教育・保育について、園で定期的に話し合う機会を設け、個に応じた個別の支援計画を立てている		3.0	3.3	
3教職員としての能力や良識・適正	①教職員としての話す力や聞く力の向上を意識している	3.2	3.2	3.1	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的なことは良識(常識)をもって、何事にも対応すれば問題となることはないと思う。向上心をもつことは、どんな職場でも同じだと思う。 ・安全に配慮されているのは評価点が高いことからわかる。自我が芽生えるこの幼児期の先生の関わりは大切だと考える。 ・他の評価・比べ④⑥が低いのは、目の前の子どもの対応で精一杯になっているのではないかと。一人ひとりの子どもを大切にしようとする姿勢は伝わる評価である。 ・⑤の「見取り」は、とても大切。小学校でも温かな見取りができるよう研修を進めている。
	②子どもや、保護者との対応には、公平さをかかさずに平等に接している	3.5	3.6	3.6	
	③自らの健康に配慮し、爪が伸びていないか等、保育上での安全性にも気をつけている	3.7	3.7	3.7	
	④教職員同士のコミュニケーションを円滑にし、片寄った人間関係を作らないようにしている	3.3	3.3	3.2	
	⑤子どものささやかな成長を見取り、それを喜ぶことができる	3.8	3.8	3.8	

評価対象	評価項目	自己評価			学校関係者評価委員 御意見
		R2	R3	R4	
	⑥園の子どものことだけでなく、自然や社会の出来事にも興味がある	3.1	3.3	3.1	・ワールドカップの話題など時事ネタで子どもたちと一緒に盛り上がったりして、社会の話題に関心を持っている。 ・社会事象や自然の移り変わりも子どもたちにわかりやすく伝え掲示して気づくように工夫した。今後も続けていきたい。
4保護者への対応	①子どもの様子や園情報は、直接話したり、電話・連絡帳等を使ったりして保護者に適切に伝える	3.5	3.5	3.5	・どうしても直接伝えたいことがあるときは保護者を待つようにし、それが出来なときは連絡帳やメモ書きをし、遅番の先生につたえてもらうよう連携をとっている。 ・複数担任なので担任に任せ、報告してもらっているので共通理解している。・今後も丁寧な対応を続けていきたい。
	②保護者との会話は、正しい日本語・敬語で語りかけ、相手の話には謙虚に耳を傾けている	3.3	3.3	3.4	・フランクになりすぎないように気をつけている。 ・正しい日本語があまり使えていない。相手の話はしっかり聞いてきた。 引き渡し時間が重なり、挨拶が忙しくなってしまうことがある。丁寧な対応を心がけていきたい。
	③園児や保護者の個人情報の管理については園の方針に従い、情報が流失しないようにしている	3.7	3.8	3.8	・園児や保護者の個人情報の取り扱いには注意している。 ・なるべくペーパーレス化した方がよいが、まだまだ紙に頼る場面が多い。効率よく仕事が出来る工夫を検討していく。
	④保護者からの具体的な意見・要望には適切に対応し、上司に連絡・報告・相談をする	3.6	3.6	3.7	・自分一人で勝手に判断し返事しないようにしている。 ・御意見を頂くことを拒まず、園として改善・検討する機会と捉え丁寧な対応を心がけている。今度も続けていきたい。
5地域の自然や社会との関わり	①園へ見学に来た人に、園の教育方針等を質問されても、きちんと答えることができる	2.9	2.8	2.8	・わからないままにしないで、質問内容をわかる職員に相談したら、自分もしっかり把握し次回からきちんと答えられるように繋げていきたい。
	②子どもの教育のために、利用したい地域の施設や機関、素材について理解している	2.7	2.8	2.6	・地域の公園の利用、農家さん等との交流から、地域と共に教育・保育がなされているなど感じる。 ・コロナ禍の中でも、地域の商店や小学校と連絡をとったり、年長ウォークラリーなどを計画したりして工夫してきた。更に発展・充実させていきたい。 ・未だにわからないことがある。今後は、散歩コースを増やしより地域を知っていきたい。
	③地域開放や子育て支援について、具体的な内容を理解している	2.8	2.7	2.6	・コロナ禍のため、地域のイベントも無くなり繋がりが残念だが園内での季節の行事は大切にしている。 ・地域開放や子育て支援について理解を深めていきたい。また、ちびっ子開放日の充実を図り、園のアピールに繋げたい。 ・子育て支援に関わる職員を増やして理解を深めたいが難しい。
6安心と安全	①ヒヤリハットの事例については振り返りを行い、大きな事故につながらないようにしている	3.3	3.4	3.6	・今年度より、エルガナ(メールアプリ)でヒヤリハットの情報交換が出来ようになり、画像もついでにわかりやすい。危険性のある場所・物は気にならないうるすぐ報告している。・今後も、些細な事でも気に掛けていく。また、普段から整理整頓する。
	②安全点検、検食、訓練等は適正に実施対応し、安全意識・防災意識を高めている	3.2	3.4	3.3	・月に一度の避難訓練は大変だが、いざという時に必ず繋がると実感している。 ・いつも訓練に備えてしまっている。急に始まる訓練で対応できるか実践してみたい。
	③健康で安全な生活を守り育てるために、感染症対策等に自ら取り組み、子どもや家庭への啓発に努めている	3.5	3.4	3.4	・職員の健康観察表への記入、手洗いの呼びかけ等による感染症対策を園全体で実施し、より安全な保育環境を作っていると思う。 ・子どもたちのマスク着脱については、学年ごとばらつきがあったように感じるので見直していきたい。
	④閉じ込め・置き去り・取り残しなどないように人数確認を確実にしている	3.8	3.8	3.8	・職員同士の連携が大切。常に声を掛け合い皆で気をつけたい。 ・園外へ出たときは特に気をつけ、必ず人数確認をすべての職員で行っている。人数が多いと他人任せになりがちなので気をつけた。 ・ダブルチェックの体制が整ってきた。
7研修と研究	①遊びと生活の専門性(職務の専門性)を高め、知識や技能を身につけるよう研修している	2.9	3.1	3.0	・新しい遊びがないか探してやってみて、なかなか行動に移せないときがある。 ・部会等で毎回共有出来るよう資料をつけ、話し合いや顧みる機会のきっかけを作っている。今後も深めていきたい。
	②日々の実践を見合い検討・反省・評価を加え、教育・保育の質の向上に繋げている	3.2	3.2	3.1	・日案とは別に指導案を立てながら、保育の質の向上が出来るよう日々行っている。 ・日誌で振り返ったり、エピソード記述をして聞いてもらったりした。 ・園内研修と構えず、普段も自由にクラス開放が出来るとよい。
	③自分の教育・保育の在り方や悩みについて、同僚の教職員や上司等と話し合っている	3.3	3.3	3.1	・悩みや相談など話しやすい環境に感謝している。 ・相談や何か困ったことを言いやすい関係・環境をとっていく立場でもあるし、自分自身言いにくい時もあるので皆が仲間として言い合える場になるような雰囲気を作っていきたい。
	④専門知識や技能の他に、趣味や読書・ボランティア活動などにも関心をもっている	2.9	3.0	2.8	・仕事と家庭の両立させるのが精一杯でなかなかできていない。 ・地域の活動・趣味を楽しむ自身の世界を広げられている。これからも日々を楽しみながら保育にあたりたい。
	⑤パソコンやタブレット・スマートフォンなどのICT機器を前向きに活用し、教育・保育の充実に努めている	2.8	3.0	3.0	・以前よりは使えるようになってきている。職員同士で協力しあっている。研修でドキュメンテーションについて取り組んでいるので今後は、もう少し、ICTを活用できれば充実すると思う。・今年度は公開保育をビデオ録画し、振り返りの際に活用したので深まりがあった。

<こども園の教育・保育をより充実していくための御提言>
 ・世論の逆風もあり、先生方の多忙化が進んでいないか心配です。先生方は目の前の子どもたちに一生懸命な様子が伝わってきます。私学の立場上、簡略化は難しいと思うが、多くの方が理解し感謝していることを伝えていただきたい。また、過度に反応する必要はないと思う。それが多忙感の緩和につながると思う。
 ・当たり前だと思われる日々の保育の行動をもう一度見直し、自分ながらの方法を小集団活動を通して実践してください。PDCAのサイクルで問題の解決を！
 ・1学年違うと成長に大きな差があると思うが、少子化で家庭内の兄弟姉妹が少いと思う。年齢による上下関係があっても同じ空間を共有することは子どもにとって大きな意味があると思う。月に1回でもよいので、年長・年中・年少の子どもたちが一緒に遊ぶ場を設けることも必要だと思う。
 ・参観で感じた事は、時代の流れを汲んでジェンダーについても少し配慮があってもよいかと思った。余り気にし過ぎるのもよくないが、男の子ブルー女の子ピンク、男の子=スポーツ女の子=可愛いを植え付けかねないシーンがありました。学校の制服すらジェンダーフリーになっているので、幼児期はジェンダーについてもと自由な発想でいられる環境が時代に求められていると思う。お内裏様=お雛は誤りだそう。お雛・め雛を合わせてお内裏様と言うようです。(作詞家の誤り)